

<教育利用> ⑮ 「困り感のある生徒への対応相談」

校種	小・中・高	校務 教育	ChatGPT、Bing、Bard テキスト生成、画像生成、動画生成	実践タイトル: 困り感のある生徒への対応相談
----	-------	-------	---------------------------------------	------------------------

m You
他人が怒られているのに、知的障害の子が自分が怒られていると感じています。対処方法はありますか？

g ChatGPT
知的障害の子が自分が怒られていると感じることは、その子の認知能力や情動的な発達によって異なります。そのため、対処方法は個人に応じて異なりますが、以下のアプローチが考えられます。

1. イメージや絵カードを用いた説明
知的障害を持つ子どもたちは、言葉だけでは理解しにくい場合があります。そのため、シンプルなイメージや絵カードを用いた説明を行うことで、自分が怒られていないことを理解する手助けになるかもしれません。
2. 感情を表現する練習
知的障害を持つ子どもたちは、感情を表現することが難しい場合があります。そのため、怒りや嫌な気持ちなどの感情を表現する練習を行うことで、自分の感情と他人の感情を区別することができるようになるかもしれません。
3. キャリングタイム
知的障害を持つ子どもたちは、ストレスや不安を感じやすい傾向があります。そのため、キャリングタイムと呼ばれる、子どもたちが自分の感情や気持ちを話す場を提供することで、安心感を得ることができるかもしれません。
4. 知的障害に特化した支援機関の利用
知的障害を持つ子どもたちは、特別な支援が必要な場合があります。そのため、専門的な支援機関を利用することで、子どもたちが適切なケアを受けられるようになるかもしれません。

上記のアプローチは、知的障害を持つ子どもたちが自分が怒られていると感じる場合に役立つ可能性があります。しかし、子どもたちによっては、このようなアプローチだけでは十分でない場合もあります。そのため、専門家の助言を仰ぐことが大切です。



【パイロット的な取組の段階】

④ 日常使いする段階

【実践概要】

特別な支援を要する生徒に対しての指導計画に関して、これまでその特質に対して自身で学習したり、専門機関に意見をお求める事前段階の対応としてネット検索する感覚で、個人情報伏せて特質だけプロンプトかけて指導計画を練ってみる。
その後、実際の指導計画をたたき台として専門機関と連携して指導にあたる。

【入力したプロンプト】

他人が怒られているのに、知的障害の子が自分が怒られていると感じています。対処方法はありますか？

実践のふり返り

【成果】専門機関に聞いたのち、生徒実情に合わせて対応策を練っていた時間を生成AIを活用することで省力することが出来た。

【課題】今回はハルシネーションなどの危惧する生成は行われずに生成されたためスムーズに対応策を練ることができたが、起きるものだと仮定して専門機関にも生成AIの回答を共有する必要があると感じた。